

## アジアゾウにおける分離飼育と雌雄同居飼育での行動比較

○松元悠一郎, 落合晋作, 海道夢紀, 菊村風穂  
(鹿児島市平川動物公園)

鹿児島市平川動物公園では2頭のアジアゾウ(雌雄共に推定43歳)を準間接にて飼育している。高齢化等による死亡後の単独飼育時の影響把握や、飼育動物の福祉の向上を目的として、分離時と同居時の行動調査を行った。調査期間は2019年3月4~8日(雄非マスト中,同居),6月3~7日(雄マスト中,同居),9月23~27日(雄マスト中,分離)のそれぞれ5日間実施した。行動は1分間隔の瞬間サンプリングで記録し,10:00~11:30,13:30~15:00の間で30分ごとに5日間実施した。行動分類は,摂取,操作,慰安,移動,休息,親和,交尾,常同行動,その他とした。期間中の雄の行動比率は,雄非マスト中の同居では,摂取37.5%,常同行動39.0%となり,雄マスト中の同居では,摂取28.0%,常同行動11.5%となり,雄マスト中の分離時では,摂取53.0%,常

同行動20.0%となった。摂取は雄マスト中の分離時が最も多く,常同行動は雄非マスト中の同居時が最も多かった。また,雄マスト時には乗駕や追尾などの交尾行動が観察された。雌の行動比率は,雄非マスト中の同居では,摂取48.0%,慰安3.0%,休息21.5%となり,雄マスト中の同居では,摂取31.5%,慰安19.0%,休息11.5%となり,雄マスト中の分離時では,摂取53.1%,慰安1.7%,休息15.6%となった。摂取は雄マスト中の同居時のみ少なくなり,休息は雄非マスト中の同居時が最も多くなった。時間帯別では,雄非マスト中に同居している場合,雄は各時間帯で一定の割合で常同行動を行っていたが,マスト中に分離飼育している場合は15:00前後に常同行動が多くなった(88.0%)。今回の結果から,雄の常同行動は同居の場合,マスト時には抑制されるが,非マスト時には抑制されずとは限らず,福祉に配慮する必要があることが分かった。また,雌の慰安休息時間は,分離飼育時よりも同居している方が多くなり,雌の福祉向上に雄の存在が寄与している事が示唆された。